



令和6年度 第16号
令和6年7月17日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

今年度の水泳学習も無事に終了いたしました。ご協力ありがとうございました。



7月12日の低学年「水遊び大会」、高学年「水泳大会」は、保護者の皆様にも参観に来ていただき、子どもたちの頑張りをお見せすることができました。誠にありがとうございます。

また、昨日（16日）には高学年の着衣水泳の学習もあり、何よりも子どもの命を大切にしたい本荘小学校の令和6年度水泳学習の幕を閉じることができたのでした。

学校だより13号でも書きましたが、本荘小では、水泳学習のねらいの一つに、命を守ることを位置付けています。そのために安全安心な授業を心がけますし、管理職を含めた指導者のプラス1体制、プラス2体制を行ってきました。すべては子どものためです。

そういう教師側の配慮というものは、子どもの心に届くものです。すべての学年において、教師の指導に反するおふざけをしたり、他のお友達に対して水の中でいたずらや意地悪をしたりすることもありませんでした。これは本荘小学校のよいところであり、誇れるところです。ですので、この短期間に子どもたちはずいぶんと自らのスキルを上げることができたのではないかと感じた次第です。

低学年では、ほとんどの子どもが、顔を水に付けられるようになったばかりか、頭を沈めた状態での水中での活動ができるようになっていました。水遊び大会の直前では、けのびでどこまで浮けるか、ビート板を使ってどこまで泳げるかの計測までできたほどでした。低学年のみんなは、特に先生方の指導をよく守って行動していたという印象が強かったですね。

高学年は、コース別学習が行われていました。長い距離を泳ぐコースなどそれぞれの課題に合わせた学習が行われていました。ここでも、本荘小の子どもたちは、現時点での自分の能力を理解したうえで、「どのようにしたら自分のめあてが達成できるだろう？」という課題意識を常に持ち続けていたように思います。少し前までは、泳げない子どもが泳げるようになるためにスパルタ教育的にガンガン泳がせるようなイメージがあったかにと思いますが、現代の教育では、どのようにしたら泳ぐことができるかというテクニカルポイントを指導し、ビート板等の補助具を使って、その動きを無理なく習得できるようにするか考える授業が主流です。本校の水泳指導もそういった自ら考える体育学習が行われていたのではないかと自負しています。※裏面に続きます

水泳は、楽しいものです。私も小学生時代、水泳部に所属していました。そこで学んでいたのは、泳ぐ楽しさと目標の距離まで泳ぐことができた達成感でした。3年生までは25メートル泳ぐのが精いっぱいだった少年は、4年生で50メートル、5年生で100メートル泳ぐことができるようになり、6年生では1000メートル泳ぐことができました。才能があったわけでもなく、ど根性の特訓をされたわけでもない普通の平凡な少年でも、コツをつかんだことと自信を深めたことで、このように記録を伸ばすことができたのです。

このように水泳の学習に限らず、学ぶということにはいろいろなチャンスがあります。本荘小のこどもたちも、今回の水泳学習での学びをいろいろなことに活かしてほしいと思います。みんなよくがんばったね。(校長)

校長先生の虫眼鏡「着衣水泳の様子」

3年生、5年生、6年生が実施。残念ながら、4年生は欠席者多数のためにこの日は実施できませんでした。しかしながら、ペットボトル1本で命は救われるのです。ご存じおきください。

